

平成30年5月11日

平成30年4月市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙A>

平判は、学参・コミケ関連の動きが見られたが、全体を押し上げるには至らず、前年を下回った。（前年比95.6%）

巻取は、生損保関連、住宅関連チラシの動きが堅調に推移し、前年を大幅に上回った。

（前年比118.3%）

再生紙は、官公庁関連の動きが全体的に減少し、平判・巻取共に前年を下回った。

（前年比 平判88.8% 巻取95.1% 再生紙計91.5%）

（前年比 印刷用紙A 99.6%）

<A2コート>

平判は、投信関連の目論見書、生損保関連の約款等マツト紙を中心に堅調な動きであったが、全体的に仕事量は少なく前年を下回った。

巻取は、大学募集案内、中元カタログ、官公庁関連等で動きがあったものの新規案件が少なく前年を大幅に下回った。（前年比 平判97.9% 巻取88.1% 全体95.6%）

<A3コート>

生損保、不動産、学習塾、量販店向けのチラシ等で動きがあったものの仕事量及び部数の減少等により前年を下回った。

（前年比 平判84.7% 巻取104.2% 全体96.3%）

<ノーカーボン紙>

全体的な動きは良くなかったものの、生損保、お中元関連で動きがあり、前年並に推移した。（前年比 平判104.0% 巻取99.0%）

<上質フォーム>

生損保関連、官公庁向け通知書で特需が入り、前年を大きく上回った。

（前年比 110.5%）

<包装用紙>

特殊両更は、ブックカバーの需要はあったが、封筒の白物化や多色化による印刷用紙への移行による影響があり、前年を下回った。（前年比 94.0%）

色クラフトも一般企業向け、共済組合向け封筒で一部動きがあったが、全体を押し上げる程ではなく、昨年を下回った。（前年比 91.4%）

純白ロールは、中元ギフト用途で一部動きがあったが、省包装化、軟包装化の影響で昨年を下回った。（前年比73.5%）

軽包装は、製本会社向け、雑包装用途と手提げ袋用途が好調で昨年を上回った。

（前年比130.7%）

片艶晒、両更晒は、金融関係向け封筒とGWに向けての専門店向け衣料品向けの手提げ袋用途が好調で昨年を上回った。（前年比 片艶晒103.8%、両更晒111.1%）

包装紙全体でも101.2%と昨年を上回った。

<板紙>

食品、菓子関係は、堅調な動きであったが、土産物関連の前倒しの動きもあまり見られず全体的に大型連休前の盛り上がりには欠け、昨年をやや下回った。（前年比96.0%）